

【 会 議 録 （ 概 要 ） 】

実施日時： 令和6年（2024年）2月26日（月）10時～12時

会議名	令和6年度越谷市商工対策委員会 （2月26日開催）	実施場所	越谷市役所本庁舎6階 会議室6-1
件名/議題	【令和6年度越谷市商工対策委員会（2月26日開催）】 1 開会 2 委嘱状交付 3 新任委員あいさつ 4 議事 ・（仮称）越谷市観光まちづくり推進計画（素案）について ・諮問事項への答申案について 5 閉会	会議資料： （ <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	
出席者等	出席委員（順不同） 井橋吉一委員（会長）、中島美三郎委員（副会長）、江原武男委員（副会長）、 大野聡史委員、中村靖委員、沓沢隆行委員、黒崎徹委員、宮嶋佐知子委員、桃木利幸委員、 山本佳子委員 欠席委員 小櫃義徳委員、中内啓夫委員 事務局他 経済振興課長、経済振興課職員7名 傍聴人 なし		
●主な意見等			
【令和5年度越谷市商工対策委員会（2月26日開催）】 （仮称）越谷市観光まちづくり推進計画（素案）について ▪ 水辺の利活用について、推進力を持って進めることが重要。そのためにスケジュールを開示の上、他の自治体に先駆けて展開してほしい。 ▪ 話題を集めるような日本に1つのものを目指して実現してほしい。 ▪ 創業者の発信力の強さを活かして、「越谷」の名前が市外に広まるような仕組みの工夫がある といいと思う。 ▪ 水辺の利活用について、大相模調整池が冠水を防いだ事例等を成功モデルとし、視察にきてもら うような取り組みをすることでPRにも繋がると思う。			

○議長

議事内容について事務局より説明願う。

○事務局

以下3点について説明。

- ① 前回（12月25日）からの経緯（パブリックコメントの報告）
- ② 前回（12月25日）からの変更点
- ③ 今後のスケジュールについて

○議長

具体的な施策メニューについて説明願う。

○事務局

38 ページ掲載の「第7章 施策メニュー」について説明。

○議長

ただ今の説明について、何か意見質問等はあるか。

○委員A

埼玉県と河川の再開発に取り組んでいるようだが、観光協会の脇にある土地の活用はどうなっているか。

○事務局

現状でお示しできる構想がない状況ではあるが、市だけではなく民間企業からの提案も含めて活用を検討していきたい。

○委員B

水辺の利活用について、ここからは推進力をつけるかどうか大切に考えている。（前回は議論にあったように）地域ごとに資源を深掘して、いかに推進力を持って開発していくか、また越谷の魅力を短期的に発信していけるか等が大切に考えている。来年水辺のアクティビティ事業を展開していくのであれば、是非できることは協力していきたい。そのためには、スケジュール間を提示してもらって、いち早く他の自治体に先駆けてこのような事業が展開していければと思う。

○委員A

例えばシドニーのオペラハウスのように話題を集めるようなものを作れたらよいと思う。単なる箱モノを作るだけでなく“日本に1つ”を目指して実現に向けてもらいたい。

○事務局

水辺の立地や景観は日本の誇れるものであると思う。事業の内容も含めて、越谷の魅力としてプロジェクトの中で皆様と検討していきたい。

○議長

水辺の活用にあたっては、栈橋をつくってその周りに飲食ができる施設をつくるという計

画の話の聞いている。進捗状況はどうか。

○事務局

棧橋については、民間と連携し進める流れになっている。ただし、大相模調節池の地盤が当初の想定より低いため、設計に手戻りがあり、スケジュールに遅れが出ている状況である。

○委員C

水辺での創業支援について、ダイナミズムが生まれるととてもいい取り組みだと思う。越谷が創業の拠点になって、越谷で生まれて全国に展開していき、さらには海外にもいくようなよい循環が生まれる拠点になったらいいと思う。創業者には発信していく力がある。発信していく際に、必ず「越谷」の名前が自然と外に発信していくような仕組みやルールができるといい。

○事務局

水辺の利活用について、1つの目玉として「創業とコミュニティづくり」というテーマを打ち出している。創業については今後創業者が活躍・参加できる場、コンテナショップやイベント運営等が事業者から提案があった。

また、市では女性を対象にした創業支援セミナーを水辺のまちづくり館で開催し、水辺やコミュニティビジネスのテーマに沿った形での講座を実施している。さらに、水辺での創業のあり方について“スモールビジネス”や“コミュニティビジネス”を組み合わせた越谷ならではの創業支援の形を試行しているため、「地域人材」「まちづくり人材」が活躍できるような、経済と観光がミックスするような取り組みに発展していくと思う。

○委員D

「女性活躍」という言葉がぼやけたイメージを一般的に持たれがち。越谷は若い世代が多く、子育て世帯が他の市に比べて多いというイメージがある。出産、育児で一度仕事をリタイアせざるを得ない状態について、以前は「M字カーブ」今は「L字カーブ」と呼ばれている。（出産・育児の時点で）仕事を辞めてしまうと、復活する際は正社員に戻れないというケースを指している。例えば男性が東京に働きに出ていき、女性が育児をしているという家庭であれば、その間、保育園に子供を預けている間の短時間にしか働けない。そういった視点からも、女性たちをより活躍できるような仕組みづくりをしてほしい。

○事務局

女性の活躍については、中小企業振興計画の方でも重点プロジェクトとして大きなテーマである。女性の活躍や仕事起こしというテーマに集客効率と観光をミックスさせることは、ひとつ有効だと思っている。例えば、女性創業希望者の支援を水辺のまちづくり館で行い、水辺で活躍する人を増やしていく、といった試みを今年から始めている。今後働き方や仕事の在り方が多様化していく中で、必ずしも「都内に正社員で働かなくては社会で活躍出来ない」ということではないと感じている。例えば、週末の活動や副業といった形も仕事起こし

と言える。創業の力で何かスキルを身に付けることで、地域で仕事が起こせたり、地域に絡める様な活躍もあると考えている。例えば今年度については、キャリアデザイン手法を取り入れて「スモールビジネス」より小さい「マイクロビジネス」のといったかたちで地域の仕事に関われる方法は無いのか、少しずつ検討しているところである。それに限らず、集客効率、観光の力は、裾野が広いと思っているため、女性活躍も含めた社会課題に変えていくと観光をどう結び付けるかの視点で、取り組んで行きたいと考えている。

○委員E

今年秋まつりを 10 月に開催予定である。市職員にはイベントはもちろん、宿場町を盛り上げるために是非真剣に向き合ってほしい。

○事務局

これまで秋まつりと市の関わりについては、一定の距離を置いた中で協力させていただいたと聞いている。越谷秋まつりが今年開催されるが今後も持続的に続けていくために、市の方の関わり方も再度検討する必要あると思う。越谷秋まつりとの関わりは地域との関わり方にもなると思うので、検討していきたい。

○委員A

大沢における神輿の祭りについては、毎年行われているが、市の関わりが全く無い。事情はあると思うが、応援してもらえるとありがたい。

また、まちなかブランディングについて、今色々な街起こしをしようと言う団体も出ている。その中で、越谷の交通事情が車優先になりすぎているのではないかと。計画があることは承知しているが、早めに電柱の地中化や歩行者優先の道路について検討していただければと思っている。また現在の県道の権利が市に移譲されれば、まちなかブランディングや開発が進むのではないかと。

○事務局

旧日光街道の電柱の地中化については、以前から商工会議所様からご要望をいただいている。担当課に確認すると防災道路やまちづくりと関連し、取組みが必要ということを確認していると聞いている。観光の力でできることとしては、にぎわいや人の層を作っていくことで、サポートに繋がると考えている。また市全体としても、地域の皆さんと議論していくことが大切かと思っている。

○委員F

根本的な話だが、施策の数が多くどこまで手が付けられるのか疑問。6カ年計画だが、実際時代の流れも早く流行り廃りもあるため、できるものは早く着工し、早く達成できるものがあれば良いと思う。

また、ある新聞記事では 10 月が越谷の人口が 255 名減少し、埼玉県の中で一番減少しているという状況。一過性なものなのか不明だが、今後減る可能性も踏まえ、こういう施策は

さらに進めた方がいいのかなと思う。

○委員A

一方で、先日の県の方の調査によると、30年後の越谷市の予想人口1,000人増えると言われている。それらも鑑みながら、もし人口減少に入るようであればそれを出来るだけ遅らせるような施策を早く検討してもらいたい。

○事務局

人口減少の報道については、各地区ごとの報道で東部地区が顕著に減っているという趣旨だと認識している。また県の報道については、ポテンシャル調査みたいな形で増える可能性があるということで（公式に市に届いたわけではないが）耳にしている。人口減少については、地域全体の課題、長期的な課題だと思う一方で、減ることを前提に計画を縮小させるのではなく、人口減少に対して地域の活力をどうするかという点が大切だと思う。今回施策の多さにご心配の声もあるが、色々な手を打つことで、観光の力で越谷を元気にしたいという趣旨で本計画は作成している。また、これらの施策は全て市役所が自前で実施するという計画にはなっていない。市でリーダーシップを発揮させるべきところは発揮しつつ、各事業者が実施してもらおう部分も整理していきたい。また進捗の仕組みについては、年度ごとに、まちづくりの関係者に進捗状況を俯瞰的に見える状況で皆様のところに報告をし、ご意見をいただくという仕組みを考えている。

○委員G

前回の資料と比べて内容が濃くなってきたという印象である。その中で3点お伺いしたい。1点目、39ページの下から2番目、水辺や自然を船で巡る取組みについての考えを聞きたい。観光でも越谷市内で他の所を巡る交通機関が非常に少ない。越谷市の河川を活用することで、花見やイチゴ狩り等の観光名称を繋げることができるので是非検討を進めてもらいたい。2点目、50ページの④の「デジタル観光統計オープンデータ」について、今まで市で発表していた指標とは変わってくるのか。3点目、51ページ（10章）の観光まちづくりサロンについても、具体的なスケジュールを示してもらいたい。

○事務局

まず1点目、船についてはワークショップ等多くの皆さんからご意見やご提案をもらっている。実現性は敢えて問わず、色々な可能性を含めて出来る方向をみんなで考えていこうということで今回の資料に掲載している。2点目、指標については私たち行政にとってはチャレンジングな試み。これまでは、既に国や市で使われている数字を目標値とするケースが殆どであった。今回についてはすべての指標を改めて、一つひとつ皆さんに聞いてコストをかけて管理していく形で考えている。特に観光の来訪者数については、これまで総合計画、都市計画マスタープランにおいては、イオンモールの来客者を含めた形での数値を掲載している。一方で、一つひとつの観光のコンテンツの数字の推移が見にくいという意見もあった。

今回は、より客観的な数字を取ることとした。例えば、イベントや商業施設についてはカウントしない。GPS、テクノロジーを使い、20 km圏内の人たちの動きについては来訪者としてカウントしないといった考え方。出来るだけいわゆる観光の来訪客というのがどれだけ来ているのかという数値を取ってみようという仕組みになっている。こちらの数値については、かなり乖離した数字が出るのかと思われるが、事実を押しえた上でどう生かしていくかというところについて検討していきたいと考えている。最後に3点目、観光まちづくりサロンについては、観光まちづくり推進のしくみ、各施策との取組のしくみ、進捗状況の確認のしくみは肝となる場所だと思う。計画作成後、来年度しっかりと検討し、その検討の経過も含めて進捗状況は商工対策委員会でもご報告させていただきたいと考えている。

○議長

予算についての記載も入っていないので、それについても検討して頂きたい。

○事務局

大きな予算については、各年度の予算調整の中で、計画に沿った形で調整の方していく。また、各計画策定後、各関係者、各団体の皆様には、計画に基づいて、皆さんで向かっていくために各事業について、情報共有して連携していきたいと考えている。

○委員H

水辺の利活用について、大相模調節池に関しては、完成の翌年に大きな台風があった時も冠水せずに済んだと聞いている。この成功モデルを活かして、ぜひ視察にお越しいただく取組みをすることで、PRが出来たらよいと感じた。

また宿場町について、ぜひ日光街道の中では点ではなく、面での展開、広域でPRをする必要があると思う。連携をしてPRする事によって、いいPRになるのではないかと感じた。

○事務局

水辺、旧日光街道ともまちづくりの視点で、その成功事例として、越谷の取組みが、外からも評価できる、外からも人が来てくれる、それには模範的なまちづくりも必要だと思うのでそういったところの視点も含めてしっかりと取組み、その住民の方、市の事業者も含めたまちづくりの取組みを、外の方に評価していただけるようにしっかりと取組んでいきたい。

○議長

全体を通して他に意見はあるか。

○委員I

施策内容が多いため、これだけは実行したいという最優先のものを記載しても良いのではと思った。秋祭りのようなイベントは大切な観光事業であるため、越谷市民全体が参加できるようなものになればと考えている。

○議長

その他、何か意見質問等はあるか。無ければ、本日の委員会はこれで閉会とする。